

○ICT活用に向けた今後の展開について

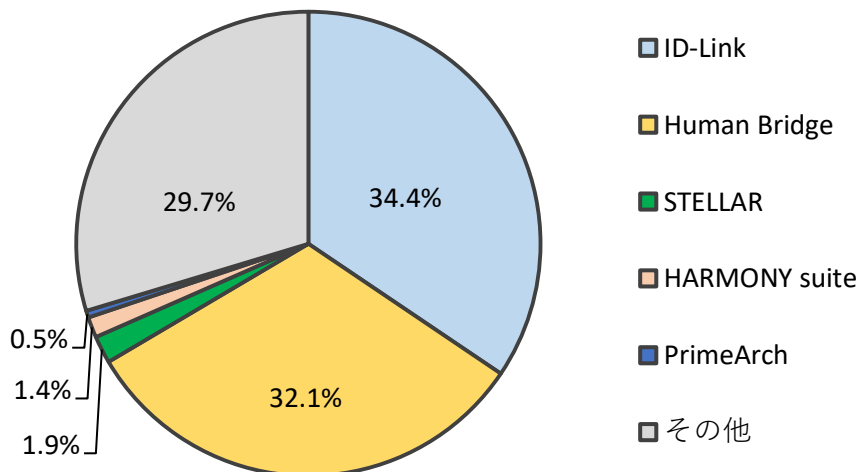
1 函館市および全国において活用されている地域医療情報連携ツール

(1) 函館市において活用されている地域医療情報連携ツール

No.	活用ツール	医療機関名	備考
1	ID-Link	市立函館病院など（道南Medlka）	
2	Cネット	函館中央病院	令和4年3月終了予定
3	Gネット	函館五稜郭病院	令和3年8月終了
4	画像連携システム	函館市医師会病院など	

(2) 全国において活用されている地域医療情報連携ツール

ID-Linkの利用割合は全体の34.4%と最も高く、次いでHuman Bridge（富士通株式会社）の利用割合が高い。この2者で全体の70%弱を占めている。

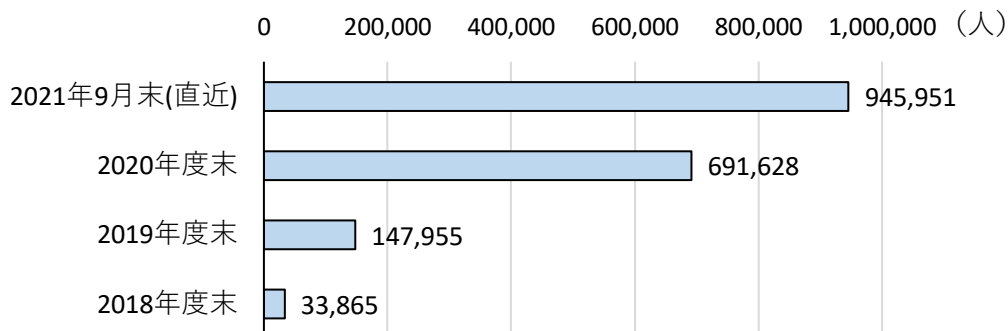


※「ICTを利用した全国地域医療情報連携ネットワークの概況（2018年度版）」の掲載データを参考に作成

2 道南MedIkaにおけるID-Linkの利用状況

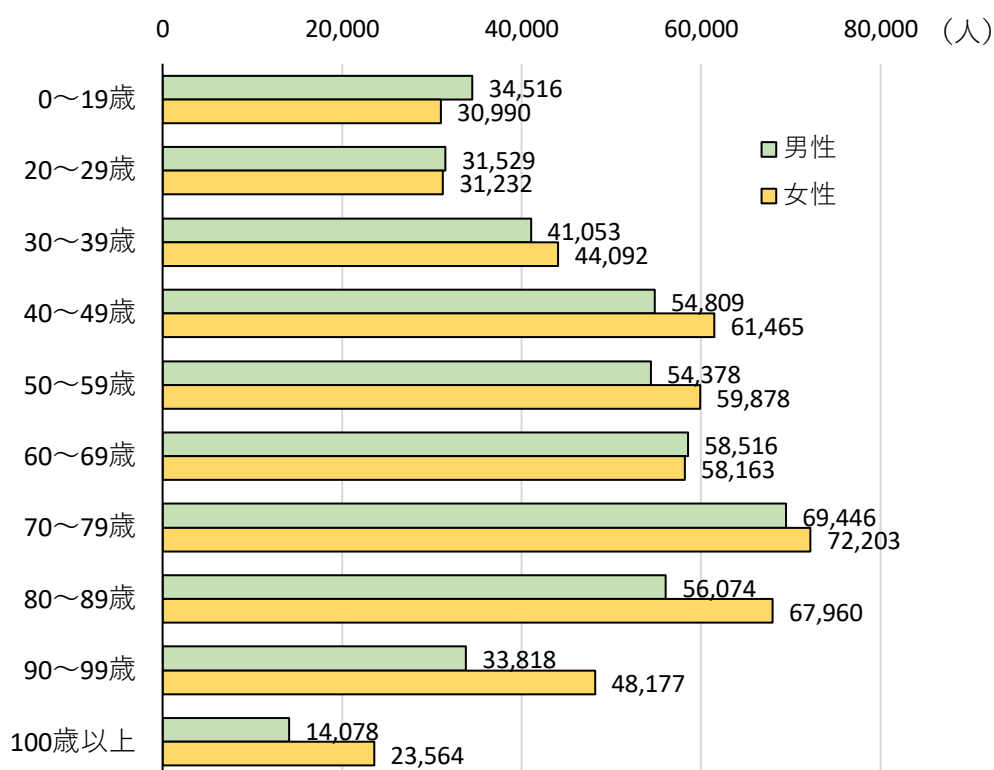
(1) 登録患者数の推移（過去3か年）

函館五稜郭病院，函館中央病院が新たに情報公開施設となった（令和2年11月，令和3年5月）ことで，過去3か年の登録患者数は大きく増加している。



(2) 登録患者数の内訳（年代別，2021年9月末時点）

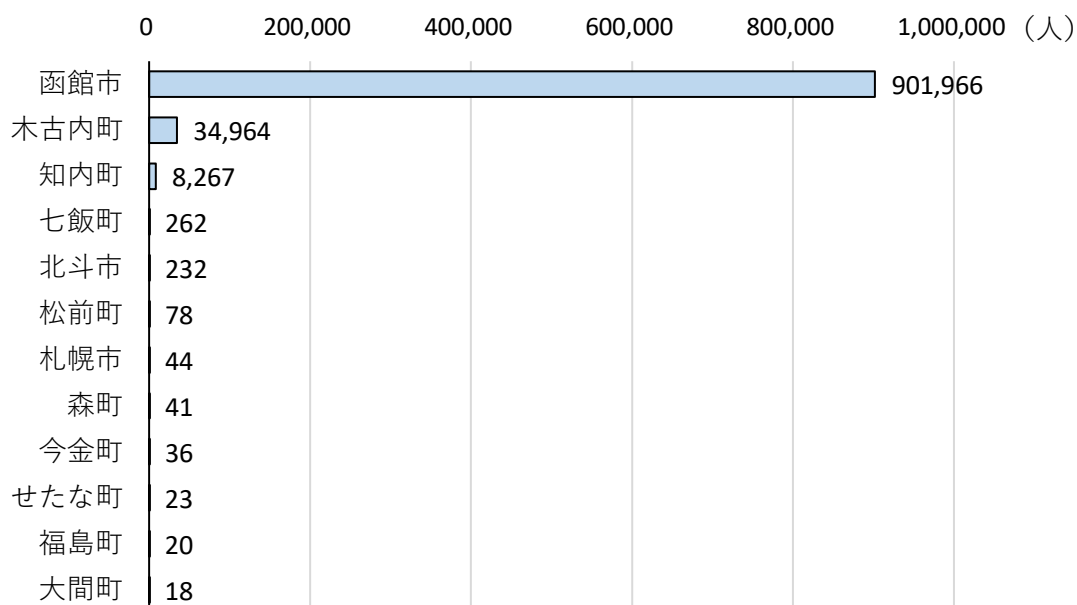
高齢者のみならず，幅広い年代の患者が登録されており，今後もID-Linkの継続的な利用が見込まれる。



※性別不明の10人を除く

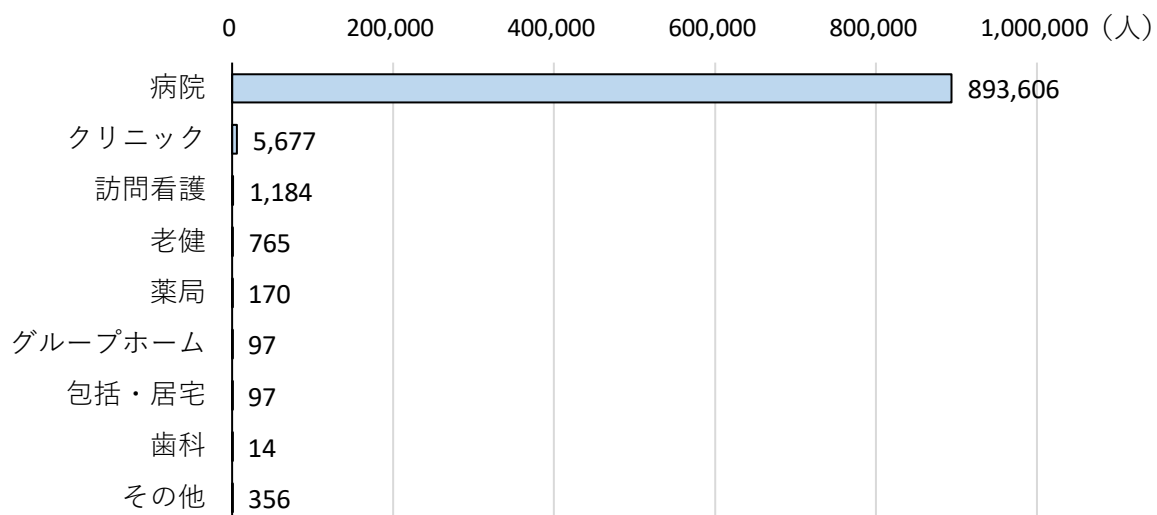
(3) 登録患者数の内訳（自治体別，2021年9月末時点）

函館市の医療機関等における登録患者数が最も多く，登録患者数全体の約95%を占めている。



(4) 函館市の医療機関等における登録患者数の内訳（施設の種類別，2021年9月末時点）

病院での登録患者数が最も多く，函館市における登録患者数全体の約99%を占めている。



(5) 参考：函館市の病院における登録患者数（道南の自治体の人口に応じて按分した場合）

函館市の病院を受診している患者については、函館市在住の方と、他の自治体に在住している方が混在している。

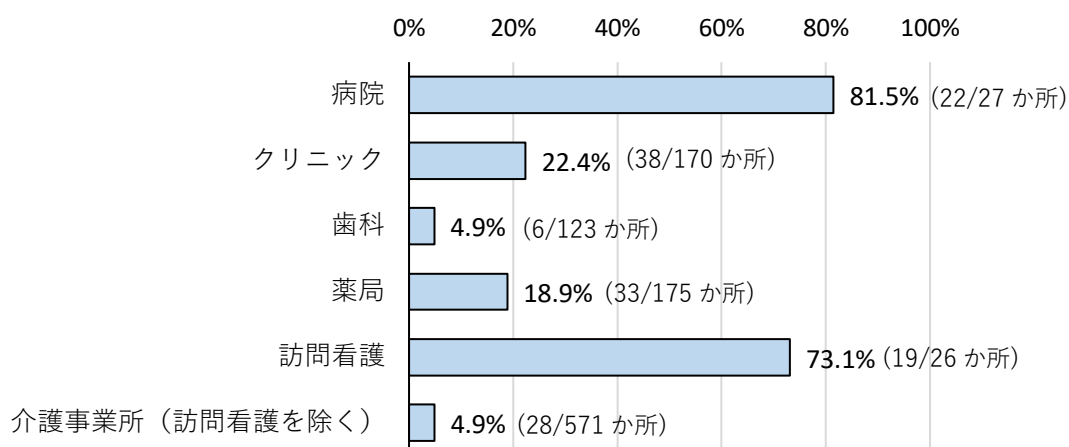
本年1月1日時点の道南医療圏の自治体の全人口に占める函館市の人口の割合は60.25%、これに対応する函館市の病院における登録患者数は538,398人であり、少なく見積もっても、これだけの函館市民の情報が登録されているということになる。

(人)

医療圏			人口 (2021.1.1時点)		構成割合		人口按分後 登録患者数	
第三次	第二次	第一次						
道南	南渡島	函館市	251,891	363,046	60.25%	86.83%	538,398	775,918
		北斗市	45,657		10.92%		97,582	
		松前町	6,753		1.62%		14,476	
		福島町	3,859		0.92%		8,221	
		知内町	4,198		1.00%		8,936	
		木古内町	3,956		0.95%		8,489	
		七飯町	28,072		6.71%		59,961	
		鹿部町	3,811		0.91%		8,132	
		森町	14,849		3.55%		31,723	
	南檜山	江差町	7,310	21,644	1.75%	5.18%	15,638	46,289
		上ノ国町	4,615		1.10%		9,830	
		厚沢部町	3,701		0.89%		7,953	
		乙部町	3,520		0.84%		7,506	
		奥尻町	2,498		0.60%		5,362	
	北渡島檜山	八雲長	15,673	33,401	3.75%	7.99%	33,510	71,399
		長万部町	5,111		1.22%		10,902	
		せたな町	7,563		1.81%		16,174	
		今金町	5,054		1.21%		10,813	
合計			418,091	418,091	100.00%	100.00%	893,606	893,606

(6) 函館市の施設の種別ごとの道南MedIkaの参加割合（=ID-Linkの導入割合 2021年10月1日時点）

病院が最も高く、次いで訪問看護事業所が高い。



3 1・2の情報に基づく函館市におけるICTの活用に向けた今後の展開

- ・ 函館市の医療機関等において活用されている情報連携ツールは複数存在し、基本的には、法人とその関係機関の中での病診連携の情報共有等に主として活用されているものと思われるが、ID-Linkについては法人等の枠を超えて、横断的に多くの医療機関等に導入・活用されている状況といえる。
- ・ 函館市のID-Linkの導入状況については、施設の種別ごとにバラつきはあるものの、市内の全病院の8割超、訪問看護事業所では7割超が導入済みであるほか、近年では、函館中央病院や函館五稜郭病院が情報公開施設となったことにより、登録患者数が大幅に増え、ID-Linkの普及がいっそう進んでいることがうかがわれる。
- ・ ID-Linkの利用状況については、函館市内の医療機関等による登録患者数が最も多く、登録患者数全体の約95%を占めているほか、函館市内の医療機関による登録者のうち、函館市民の割合は少なくとも6割超と推測される。
- ・ 登録患者数の内訳をみると、高齢者のみならず、幅広い年代の患者が登録されていることや、全国の地域医療情報連携ネットワークが利用しているシステムのシェアでは、ID-Linkが3割超で最も高いことなどから、今後も、ID-Linkの継続的・安定的な利用が見込まれる。
- ・ 一方で、国においては、地域医療情報連携ネットワークの活動状況に濃淡があり、医療機関の参加率が低い地域があること等により、医療情報のやりとりが広く電子的になされている現状にないことなどを踏まえ、本年7月29日に、全国的な医療情報ネットワークの基盤に関する議論を行う、ワーキンググループをあらためて設置するなど、具体的な議論は未だにこれからという状況である。
しかしながら、前述のとおりID-Linkは全国のシェアが高く、次に高いHuman Bridgeと合わせると、全国で7割弱のシェアであるため、国においても、今後、医療情報の連携を進めるうえで、この現状を考慮しながら、当ワーキンググループ等において議論を進めることが予測される場所である。



< 協議事項 >

以上のことを踏まえ、市としては、ID-Linkが医療・介護関係者が利用するICTツールとしてスタンダードな位置づけとなっていることを鑑み、ID-Linkを運用している道南MedIkaと市との間の、連携の仕組み作りを進めることと合わせ、情報共有ツールとしてのID-Linkの有用性の情報発信について、医療・介護連携支援センターの取り組みに位置づけ、周知・啓発を進めてまいりたいと考えているが、如何か。